

2014 年度の研究成果

氏名：池野範男

①学会発表

2) 海外

Norio Ikeno, Global Citizenship Education in Japan: Retrospective and Prospective, 2014 Annual Conference in Korea Association on Social Education, Gyeong-Sang national University, South Korea, 29 July 2014.

Norio Ikeno, The Purposes of Lesson Study on Subject Pedagogy and its Contribution to the Education Studies Korean Association for Learner-centered Curriculum and Instruction Duksung Women's University, Seoul Korea, 21 November 2014.

Norio Ikeno, Education, citizenship and drama in Japan and England, The international seminar hosted by the Centre for Research on Education and Social Justice, Department of Education, University of York, UK, 10 December 2014.

②論文著書

1) 日本語論文・著書

【著書】

永田忠道・池野範男編著『地域からの社会科の探究』日本文教出版、2014年、全278頁。

日本教育方法学会編『教育方法学研究ハンドブック』学文社、2014年。(分担執筆：池野範男「教育研究の類型と特質」(第Ⅱ部第1章)、50-55頁。)

【論文】

アイウアー・グッドソン(池野範男・福井駿訳)「カリキュラム、物語、社会的将来」日本カリキュラム学会編『カリキュラム研究』第23号、63-75頁、2014年。

池野範男「グローバル時代のシティズンシップ教育－問題点と可能性：民主主義と公共の論理－」日本教育学会編『教育学研究』第81巻第2号、138-149頁、2014年。

池野範男「トゥールミン・モデル－思考指導の見直しヒント－：なぜ社会科研究で利用されるのか」『社会科教育』(明治図書) No.666、2014年10月号、98-99頁。

池野範男「伝統文化教材による社会形成力育成」広島大学附属小学校学校教育研究会編『学校教育』N0.1169、2015年1月号、38-43頁。

若原崇史・宛彪・横山千夏・渡邊巧・能見一修・岡田了祐・池野範男「特別支援学校用教科書『くらしに役立つ 社会』の分析(1)：地理的内容－学修困難の研究(2)」広島大学大学院教育学研究科附属特別支援教育実践センター編『特別支援教育実践センター研究紀要』第13号、11-25頁、2015年。

横山千夏・渡邊巧・能見一修・岡田了祐・若原崇史・宛彪・池野範男「特別支援学校用教科書『くらしに役立つ 社会』の分析(2)：歴史的内容－学習困難の研究(3)」広島

大学大学院教育学研究科附属特別支援教育実践センター編『特別支援教育実践センター研究紀要』第13号、27-39頁、2015年。

池野範男「未来に生きる子供たちに必要な資質や能力とは」文部科学省初等中等教育局編『初等教育資料』No.925、平成27年4月号、iv-v頁、2015年。

2) 外国語論文・著書

【論文】

Norio Ikeno, As Citizenship Education Globalizes, Why Do Individual Countries and Regions Differ in their Approach to it?, *The Journal of Social Studies Education*, vol. 3, pp.37-52,2014.

池野範男 (Norio Ikeno) , Constructing the history understanding of a learner- Discovery by the method of the self-reflection, (韓国)歴史教育学会編『歴史教育論集』第54輯、pp.3-24、2015年。

氏名：磯崎哲夫

①学会発表

1) 国内

磯崎哲夫、課題研究「卓越性科学教育の教育課程研究（5）科学の本質を取り入れたカリキュラム構成」、日本科学教育学会第38回年会、埼玉大学、2014年9月13日。

2) 海外

Tetsuo isozaki, Takako Isozaki, Shinsuke Nakata, Toshihide Hirano and Takehiro Hayashi, The role of learned societies for improving teachers' competencies in Japan, International Science Education Conference 2014 Singapore, National Institute of Education, Singapore, 27th November 2014.

Tetsuo Isozaki, general science as a humanized science study: What can we learn from its history? The 2nd International History, Philosophy and Science Teaching Asia Regional Conference, Taipei, Howard Civic Service International House, 4th December 2014.

②論文著書

2) 外国語論文・著書

Tetsuo Isozaki, Lesson Study Research and Practice in Science Classrooms, R. Gunstone (Edi.), Encyclopedia of Science Education, Springer: Dordrecht, pp.615-618, 2015.

金京泽・磯崎哲夫、「学会”：课程改革的助推器——以日本理科教育学会为例」、『全球教育展望 (Global education) 』、2014年第9期 (总第326期)、pp. 43-50、2014年 (中国語)。

氏名：伊藤圭子

①学会発表

1) 国内

小林歩・伊藤圭子「小学校家庭科における『ミシン縫いによる製作』授業の検討 - 『ミシン縫い技能』習得の認知プロセスを用いて - 」日本家庭科教育学会第 57 回大会、岡山大学、2014 年 6 月 29 日。

望月てる代・伊藤圭子「小学生の調理用語に関する知識の実態」日本家庭科教育学会第 57 回大会、岡山大学、2014 年 6 月 29 日。

②論文著書

1) 日本語論文・著書

小林歩・伊藤圭子「家庭科における『つまずき』要因の構造－大学生の学習経験をもとに－」、『日本家庭科教育学会誌』第 57 巻第 4 号、273-282 頁、2015 年。

伊藤圭子「『インクルーシブ家庭科』における実践的指導力向上のための現職教員研修への要請」『初等教育カリキュラム研究』第 3 号、3-11 頁、2015 年。

伊藤圭子・山口哲史・山本奈美・石田浩子「小学校家庭科における食物選択支援ツールを用いた栄養教育の開発」『学校教育実践学研究』第 21 巻、67-73 頁、2015 年。

山本奈美・伊藤圭子・山口哲史・石田浩子「小学校家庭科における保護者と連携した子ども学習支援の検討－支援ツールを用いた栄養教育の事例として－」『初等教育カリキュラム研究』第 3 号、61-67 頁、2015 年。

氏名：伊藤真

①学会発表

1) 国内

伊藤真・別府祐子・三村真弓・吉富功修「生涯音楽学習における学習動機が継続意志と積極性に及ぼす影響－アマチュア合唱団の活動を事例として－」音楽学習学会第 10 回研究発表大会（埼玉大学）、2014 年 7 月 26 日。

②論文著書

1) 日本語論文・著書

伊藤真・別府祐子・三村真弓・吉富功修「生涯音楽学習における学習動機が積極性と継続意志に及ぼす影響－アマチュア混声合唱団の活動を事例として－」音楽学習学会編『音楽学習研究』第 10 巻、1-10 頁、2014 年。

氏名：川合紀宗

①学会発表

2) 海外

Kawai, N, The Effects of Duration & Frequency on Listeners' Perceptions of Digitally Manipulated Moments of Hesitations. 2014ASHA(AmericaSpeech-Language-Hearing Association) Convention, Orlando, Florida, USA, November. 2014.

②論文著書

1) 日本語論文・著書

川合紀宗・岡崎里香・青木多寿子「聴覚障害児教育における道德教育への展望—海外における研究・実践との比較検討から—」ろう教育科学、56、1-18 頁、2014 年。

佐藤明子・谷本忠明・林田真志・川合紀宗「特別支援学校（聴覚障害）高等部を中心とした英語科学習を巡る動向」広島大学大学院教育学研究科附属特別支援教育実践センター編『特別支援教育実践センター研究紀要』第 13 号、101-112 頁、2015 年。

川合紀宗「幼児期からのことばとコミュニケーションの支援—自閉症児のコミュニケーションの発達と模倣との関係から」郷間英世編『発達障害医学の進歩』no.26 発達障害児の幼児期からの支援、診断と治療社、2015 年。

2) 外国語論文・著書

Forlin, C., Kawai, N., & Higuchi, S. Educational reform in Japan towards inclusion: Are we training teachers for success?. International Journal of Inclusive Education, 19(3), 314-331,2015.

Vanryckeghem, M, & Kawai, N. Evaluation of speech-related attitude by means of the KiddyCAT, CAT, and BigCAT within a larger Behavior Assessment Battery framework for children and adults who stutter., 広島大学大学院教育学研究科附属特別支援教育実践センター研究紀要, 第 13 号, pp.1-10,2015.

氏名：木原成一郎

①学会発表

1) 国内

木原成一郎・久保研二「小学校における体育授業の力量形成に関する研究—研究授業後の協議会における談話分析を中心に—」日本スポーツ教育学会、愛媛大学、2014 年 10 月 26 日。

②論文著書

1) 日本語論文・著書

木原成一郎・林楠「中国浙江省杭州市における体育教師の現職研修に学ぶ」『体育科教育』、第 62 巻,第 12 号、10-12 頁、2014 年。

木原成一郎編著『体育授業の目標と評価』広島大学出版会、2014年。(分担執筆：1-160頁,219-226頁, 238-254頁)

氏名：草原和博

①学会発表

1) 国内

草原和博・岡田了祐・福井駿・菅尾英代・岩下真也・魏思遙・佐々木拓也・辻本成貴・杠拓哉「C3フレームワークの理念と構造」2014年11月 全国社会科教育学会 第63回全国研究大会（於：愛媛大学，自由研究発表Ⅰ・第9分科会）。

草原和博・渡邊巧・大坂遊・金鍾成・上嶋智江・小川征児・木坂祥希・寺嶋崇「C3フレームワークにもとづくカリキュラムデザインの諸類型」2014年11月 全国社会科教育学会 第63回全国研究大会（於：愛媛大学，自由研究発表Ⅰ・第9分科会）。

桑原敏典・Thomas Misco・草原和博・小川正人「論争問題とその社会科授業での取り扱いに関する大学生の認識－教師を目指す日本の大学生に対するアンケート調査を手がかりに－」2014年11月 全国社会科教育学会 第63回全国研究大会（於：愛媛大学，自由研究発表Ⅰ・第9分科会）。

大杉昭英・須本良夫・草原和博・橋本康弘・伊藤直之・山田秀和・竹中伸夫・田中伸「「活用」力の段階的・系統的育成を目指した社会系教科目の授業開発」（2014年11月 全国社会科教育学会 第63回全国研究大会（於：愛媛大学，自由研究発表Ⅲ）。

草原和博「社会科授業研究においてキーコンピテンシーをどう捉えるか－」2015年2月 社会系教科教育学会 第26回研究発表大会（於：兵庫教育大学，シンポジウム）。

草原和博・岡田了祐・大坂遊・渡邊巧・岩下真也・上嶋智江・小川征児・木坂祥希・魏思遙・佐々木拓也・辻本成貴・寺嶋崇・山田健司・杠拓哉「社会科授業改善ハンドブックの開発と活用－教師の課題分析と課題解決を支援するために－」2015年2月 社会系教科教育学会 第26回研究発表大会（於：兵庫教育大学，第10分科会）。

2) 海外

Yu Osaka, Takumi Watanabe, Jongsung Kim and Kazuhiro Kusahara, “How and when can pre-service teachers develop their lesson planning skills in Social Studies?,” The 9th East Asia International Symposium on Teacher Education, Yuseong, South Korea, 4-5th November 2014,
Kazuhiro KUSAHARA, Takumi WATANABE, Yu OSAKA, Jongsung KIM, “Becoming a Teacher Educator of Geography-History Education through Teaching and Researching Pre-service Teachers”, Joint Symposium with Hiroshima University and Soul Natinal University, Hiroshima, Japan, 29th Jan 2015,

②論文著書

1) 日本語著書

草原和博・渡部竜也編『“国境・国土・領土”教育の論点争点―過去に学び，世界に学び，未来を拓く社会科授業の新提案―』明治図書、200頁、2014年7月。分担執筆 I 「なぜ国境・国土・領土の指導が要求されるのか」、コラム「编者からみた各論の読み方」

日本教育方法学会編『教育方法学研究ハンドブック』学文社、2014年10月、(分担執筆：「教科書研究」(第V部第4章)、346-349頁)

キース・C・バートン，リンダ・S・レヴスティク／渡部竜也・草原和博・田口紘子・田中伸訳『コモン・グッドのための歴史教育―社会文化的アプローチ』春風社、2015年3月。(分担翻訳：「分析的探究のスタンス」(第4章)、115-144頁；「物語の構造と歴史教育」(第7章)、201-230頁；「日米の研究法論の比較を通してみたバートン・レヴスティクの歴史教育研究の特質」(訳者解説)、418-428頁。)

2) 日本語論文

草原和博・渡部竜也・田口紘子・田中伸・小川正人「日本の社会科教育研究者の研究観と方法論―なんのために、どのように研究するか―」『日本教科教育学会誌』第37巻1号、63-74頁、2014年6月。

田中伸・草原和博・渡部竜也・田口紘子・小川正人「日本の社会科教育研究者の研究観と方法論(2)―教科教育学研究者が目指すべき研究スタイルと理想像―」『大阪大谷大学紀要』第48号、56-75頁、2014年。

川口広美・後藤賢次郎・草原和博・小川正人「教科教育学研究とは何かをどのように研究することか―米国在住の社会科教育研究者に対するインタビューを通して―」『日本教科教育学会誌』第37巻1号、85-94頁、2014年。

岡田了祐・草原和博「教員志望学生にみる社会科カリキュラム分析力の向上とその効果―社会系(地理歴史)カリキュラムデザイン論の受講生を手がかりに―」『広島大学大学院教育学研究科紀要』第二部(文化教育開発関連領域)第63号、49-58頁、2014年。

草原和博「グローバル社会で求められる社会科の学力―他者とともに概念をつくり，データに即して吟味・活用する―」『学校教育』(学校教育研究会)No.1169、22-29頁、2015年。

草原和博・岡田了祐・渡邊巧・大坂遊・能見一修・横山千夏・若原崇史・寺嶋崇「社会科教師はどのようなカリキュラムデザインが可能か(2)―公民学習材の開発と活用の事例研究―」『学校教育実践学研究』第21巻、83-96頁、2015年。

棚橋健治・渡邊巧・大坂遊・岩田昌太郎・草原和博「教師のリーダーシップと教科指導力の育成プログラム―シンガポール国立教育学院のGPLに注目して―」『学校教育実践学研究』第21巻、133-142頁、2015年。

大坂遊・草原和博「社会科教育に関する内面化された規範・観念の脱構築―移行・接続教育としての初年次教育の意義―」『社会認識教育学研究』(鳴門社会科教育学会)第30号、印刷中。

氏名：中村和世

① 学会発表

1) 国内

中村和世「米国における視覚芸術教育の新しいナショナル・スタンダードの検討」第53回
大学美術教育学会福井大会、福井大学、2014年10月5日。

2) 海外

Kazuyo Nakamura, Japanese Lesson Study: Developing Creativity in Children through Art, the 2015
NAEA National Convention in New Orleans, LA, New Orleans Convention Center, 26 March
2015.

②論文著書

1) 日本語論文・著書

中村和世「米国における視覚芸術教育の新しいナショナル・スタンダードの検討」大学美
術教育学会編『美術教育学研究』第47号、印刷中。

氏名：三好美織

①学会発表

1) 国内

三好美織、新たな理科教育課程への期待、日本理科教育学会（日本理科教育学会第64回全
国大会、愛媛大学）、2014年8月24日。

三好美織、フランス中等科学教育の変容にみる学力問題、日仏教育学会（日仏教育学会2014
年度研究大会、大阪大学）、2014年11月29日。

三好美織、フランス中等科学教育におけるコンピテンスとその評価に関する一考察、日本
理科教育学会（第63回日本理科教育学会中国支部大会、山口大学）、2014年12月6日。

②論文著書

1) 日本語論文・著書

三好美織、「グローバル化する社会に生きる人材を育てる理科教育課程」、日本理科教育学
会編『理科の教育』、第741号、46-49頁、2014年。

氏名：森田愛子

①学会発表

1) 国内

森田愛子 色の典型性効果：色・形への注意によって効果が異なるか 日本色彩学会第45

回全国大会、九州大学、2014年5月24日。

森田愛子・福屋いずみ 色の典型性効果：認識しやすさの影響 日本認知心理学会第12回大会、仙台国際会議場、2014年6月28日。

森田愛子 テスト不安と自己効力感が学習行動に与える影響 日本教育心理学会第56回総会、神戸国際会議場、2014年11月7日。

2) 海外

Morita, A. Silencing one's inner voice increases reading speed. The 28th International Conference of Applied Psychology, Palais des Congrès de Paris, 8-13 July 2014.

②論文著書

1) 日本語論文・著書

森田愛子「就職活動不安と情報収集行動の関連—自己効力による違いの検討—」日本キャリア教育学会編『キャリア教育研究』第33巻第1号、21-29頁、2014年。

氏名：山元隆春

①学会発表

1) 国内

山元隆春「「読解力」育成材としての絵本の有効性—Janet Evans 編(2009) Talking Beyond the Page を手がかりとして—」第126回全国大学国語教育学会、ウインクあいち、2014年5月17日。

山元隆春「読み書きカリキュラムにおける絵本の役割—Frank Serafini(2014)Reading the Visual を手がかりとして—」第127回全国大学国語教育学会、筑波大学、2014年11月8日。

②論文著書

1) 日本語論文・著書

山元隆春『読者反応を核とした「読解力」育成の足場づくり』溪水社。

山元隆春「「理解する」ことの学習のためにどのような授業が必要か—ジョアンナ・

M・ジミー著『理解するための方法を絵本で教える』の場合—」広島大学国語教育会『国語教育研究』第56号、206-218頁、2015年。

山元隆春・居川あゆ子「中学校国語科におけるリテラチャー・サークル実践の展開—「少年の日の思い出」を扱う単元の場合—」広島大学大学院教育学研究科附属教育実践総合センター編『学校教育実践学研究』第21巻、35-45頁、2015年。

エリン・オリヴァー・キーン、山元隆春・吉田新一郎訳『理解するってどういうこと？—「わかる」ための方法と「わかる」ことで得られる宝物—』新曜社、2014年。

氏名：湯澤正通

①学会発表

1) 国内

湯澤正通「発達障害を抱える児童生徒へのクラスの中で支援」研究委員会シンポジウム「ワーキングメモリ理論と発達障害—環境設定から学習・就業支援へ」日本教育心理学会第56回総会（京都大学）、2014年11月。

湯澤正通「ワーキングメモリのアセスメント ミニレクシャ」日本LD学会第23回大会（和歌山・大阪）、2014年11月。

湯澤美紀・湯澤正通「ワーキングメモリのアセスメントから見えてきた子どもの姿」日本LD学会第23回大会（和歌山・大阪、2014年11月）

梶木育子・湯澤正通「小学生の理科の学力に及ぼすワーキングメモリの影響—ワーキングメモリ容量と「関心・意欲・態度」はどちらが重要か—」第12回日本ワーキングメモリ学会大会（京都大学）、2014年12月。

水口啓吾・湯澤正通「自閉症児における自発的コミュニケーションスキルの習得：PECSトレーニングを通して」日本発達心理学会第26回大会（東京）、2015年3月

2) 海外

Masamichi Yuzawa "Classroom behavior and learning supports for exceptional children with poor working memory", 2014 International Symposium on Working Memory and Learning, University of Taipei, ROC (Taiwan), September, 2014.

②論文著書

1) 日本語論文・著書

宮崎理恵・湯澤正通・水口啓吾・中西紘士・國清あやか・宮谷真人・中條和光・森田愛子「ワーキングメモリの小さい子どもに対する学習支援—児童1人ひとりのワーキングメモリ特性を生かした学習—」広島大学学部・附属学校共同研究機構編『学部・附属学校共同研究機構研究紀要』第43号、79-86頁、2015年。

湯澤正通・宮谷真人・中條和光・杉村伸一郎・森田愛子・水口啓吾「子どもの学び支援プロジェクト：ウェブを通じたワーキングメモリアセスメントと学習支援システムの構築」『広島大学大学院教育学研究科共同研究プロジェクト報告書』第13巻、2015年。

水口啓吾・湯澤正通・浅川淳司・蔵永 瞳・渡辺大介「児童を中心とした話し合い型算数科授業におけるワーキングメモリの小さい児童の授業態度と教師のリヴォイシング」日本科学教育学会『科学教育研究』第38巻第2号、97-106頁、2014年。

湯澤正通「ワーキングメモリの個人差と教育への応用」日本老年精神医学会『老年精神医学雑誌』、第25巻第5号、509-515頁、2014年。

湯澤正通「領域固有の概念変化を目指した授業デザインから領域普遍的な認知スキルへ—教育に対するワーキングメモリ研究の意義—」日本教育心理学会『教育心理学年報』53集、166-179頁、2014年。

渡辺大介・湯澤正通・水口啓吾「小学生による算数の作問におけるワーキングメモリの役割」日本教育心理学会『発達心理学研究』第25巻第1巻、87-94頁、2014年。

湯澤正通・湯澤美紀編著『ワーキングメモリと教育』北大路書房、2014年。

氏名：吉田 成章

①学会発表

1) 国内

吉田成章「エブリ (H. Aebli) の認知心理学に基づく教授学構想」日本教育方法学会第50回記念大会、広島大学、2014.10.12。

2) 海外

Nariakira Yoshida, Herbartrezeption in der DDR-Didaktik: eine japanische Perspektive. 7. Fachtagung der Internationalen Herbart-Gesellschaft. Universität Essen. 21.3.2013.

②論文著書

1) 日本語論文・著書

吉田成章「ドイツにおけるコンピテンシー志向の授業論に関する一考察」広島大学大学院教育学研究科教育学教室編『教育科学』第29号、44-67頁、2013年。

吉田成章「授業の計画可能性に関する一考察—教授学モデルと H.キーパーの授業論を手がかりに—」『広島大学大学院教育学研究科紀要 第三部 (教育人間科学関連領域)』第63号、31-38頁、2014年。

吉田成章「教科書における『学習課題』の教授学的機能に関する研究—日本とドイツの教科書比較を通して—」日本カリキュラム学会編『カリキュラム研究』第24号、印刷中。